

部位では両葉下極にもっとも多くみられ中間部はきわめて少なかった。¹³¹I 摂取率検査では悪性甲状腺腫、単純性結節性甲状腺腫いずれも正常範囲が多かった。³²P 摂取増加率では悪性甲状腺腫症例は88%に陽性を呈し、単純性結節性甲状腺腫では14%、慢性甲状腺炎では30%に陽性を示した。後者の陽性者はいずれも悪性甲状腺腫と誤診した。術前悪性甲状腺腫と診断した適中率は76%、術前単純性結節性と診断した適中率は90%であった。

転移においては乳頭状腺癌はリンパ行性転移、汙胞状腺癌ではリンパ行性転移とともに血行性転移が多かったことは諸家の報告と一致する。

*

13. 脾肺固着術後の⁸⁶Krによる短絡率の測定

迫田晃郎 野上洋一郎 石川誠一 猪島康公

(鹿児島大秋田外科)

主として慢性の Budd-Chiarie 症候群を対象に、横隔膜を切除し、脾と左肺を積極的に固着せしめて、脾より肺静脈へ向かう副血行路の新生を期待する術式に、脾肺固着術と名づけて、その作用機序について研究をつづけている。今回は⁸⁶Krを利用し、脾肺固着術後の門脈肺短絡率を測定したのでその結果を報告する。

⁸⁶Krは不活性ガス放射性同位元素で、水の溶解係数0.05で、正常の肺毛細管を通過すると、その約95%がガスとなって肺胞気中に呼出される。しかし門脈肺短絡があると脾内に注入された⁸⁶Krは短絡を経て左肺静脈を介し、左室より末梢動脈へ出現する。これを測定することにより短絡率が割り出される。実験群別の測定結果は次のとおりである。

1) 正常対照群

5.4~1.0% (平均0.9±2.1%)

2) 胸部下大静脈狭窄群

1.1~3.8% (平均0.3±1.2%)

3) 胸部下大静脈狭窄に脾肺固着を併せ行なった群

64.6~4.0% (平均19.2±17.8%)

以上の3群の実験結果より、脾肺固着を行なった実験群は対照群に比し、短絡率のかなり著明な増加が立証された。

*

14. 肺シンチグラムの研究

渡辺克司 中田 肇

(九大放射線科)

肺癌症例24例について肺シンチグラムと肺血管造影を比較検討した。X線写真所見より、肺野型、肺門型、無

気肺型に大別すると、肺内型、無気肺型のものに変化のなるものが多かった。また無気肺を示す症例には、肺血管造影では血管影の増強がみられるのに、肺シンチグラムでは肺血流量の減少として現われるものがあった。この差は肺血管造影は肺血流分布の経時的な過程を示すのに、肺シンチグラムは肺細動脈に達した血流量を表現することによると考えられる。また肺血管造影で血管の閉塞、中絶、狭小などの変化を示すものはすべて肺シンチグラムでも異常を認めた。またこの肺シンチグラムでの変化は、放射線療法でX線上の無気肺などが回復しても元に戻らない。この原因は不明である。

*

15. RISA 静注法による脳循環動態の観察 (第5報)

一脳血栓症における脳循環動態一

藤島正敏 田中謙次郎 松山幸志郎 鶴沢春生

勝木司馬之助 (九大勝木内科)

RISA 静注後、体外計測法により、脳循環動態を検索した。症例は十分に検討され、診断の明確な脳血栓症、74例について、臨床症状、臨床検査成績と、脳循環との関連をみた。結果: 1) 卒中発作時の意識障害の有無により、発作後脳循環の改善に、有意な差が認められた。意識障害を伴なわなかった症例では、卒中発作1カ月以内の頭部血流量の平均値は、1086cc/分 (23例)、1カ月後3カ月内では、1197cc/分 (21例)、3カ月後では1298cc/分 (19例) (ただし正常値は1500±200cc/分) で、経時的に増加するに反し、意識障害を伴った脳血栓症例では、1カ月内878cc/分 (6例)、1~3カ月924cc/分 (12例)、3カ月後912cc/分 (5例)、とほとんど頭部血流量の改善は認められなかった。2) 卒中発作後3カ月間の運動機能の回復度により、1度 good recovery, 2度 poor recovery, 3度 no recovery, 4度 deathに分けると、頭部血流量はおのおの、1230cc/分 (32例)、1138cc/分 (24例)、900cc/分 (12例) と重症度が増すにつれて、血流量は減少した。4度に属する症例で、脳循環測定を行なった例はなかった。3) 収縮期血圧が180mmHgを越える高血圧を伴った脳血栓症例は、しからざる例に比し、頭部血流量は減少した。脳血管性障害を伴わない高血圧患者においても、180mmHgを越える症例では、頭部血流量は減少の傾向にあるが、脳血栓症ほどの減少は認められなかった。4) 心電図にST-T波の異常を伴った左心室肥大の脳血栓症例、脳波にσ、θなどの徐波出現頻度の高い、すなわち異常脳波を示した症例では、いずれも頭部血流量は有意に減少した。末梢血、ヘマトクリット値が52%以上